

★米によるベネズエラ人道支援PRに国連が警告＝FAIR

メディアの公正さをチェックしているFAIRは2月9日、「米の人道支援の曲芸PRに歩調を合わず西側メディア」（アダム・ジョンソン記者）と題して、人道支援をめぐる西側メディアのマドゥーロ政権攻撃を以下のように批判している。

マドゥーロ政権打倒に公然と踏み出したトランプ政権は今週、非常にうまい広報活動をおこなった。ベネズエラ政府が外国からの援助を妨害しているという単純ででき合いの主張を、西側の大マスコミが一斉に響かせたからだ。

- ◇ベネズエラが援助を阻止して緊張たかまる（CNN）
- ◇米政府がマドゥーロに死活的な援助の通過を要求（ABC）
- ◇マドゥーロが飢えた人々への援助を妨害と米が非難（ワシントンポスト）
- ◇届いた人道援助をマドゥーロが妨害（NPR）

以上の記事はすべて、マドゥーロが人民の自由を奪って飢えるのを好んでいる、非道な独裁者と飢えた人民という単純な図式で説明しているが、いずれも核心となる3点を無視している。前後関係を中立的な観察者からみれば、米メディアの誇張された報道は完全に崩壊する。

- 1、赤十字と国連の両方が米国にたいして、この援助PRに加わらないよう警告している。
- 2、問題の橋は、トランプ政権がたくらんだ視覚的な比喩で実際の意味合いはほとんどない。
- 3、米国でベネズエラ問題を担当している人物は、援助を隠れ蓑にして極右派の雇い兵に武器を渡していた過去をもっている。

（1）国際援助団体は、支援の要請をしていない。そればかりでなく、赤十字も国連も、こうした宣伝行動には参加しないよう警告していたのだ。

- ◇赤十字は米国に援助輸送の危険を警告（PBS）
- ◇国連はベネズエラへの人道援助の政治利用に反対と警告（ロイター）

赤十字はこれまでも地元当局と協力して救援物資を提供してきたし、先日その予算を倍増した。マドゥーロ政権は善意に基づく国際援助は積極的に受け入れ

ている。しかし内戦をあおり、政府転覆のPRに使われるようなものは受け入れない。そういう事実はたくさんの事例で証明されている。米メディアが報じるような援助輸送に反対しているのは、マドゥーロ政権だけではない。国連や赤十字も反対しているのだ。

- (2) 数十のメディアが、ベネズエラ政府によりベネズエラへ通じる橋が閉鎖されているという印象をふりまいているが、実際は、この橋はもう何年も前から使われていない。政府がコロンビア側からの侵入を防ぐためにタンカーとコンテナを配置しているのは事実だが、それ以外の障害物は2016年から置かれている。問題の橋は2015年に建設されたが、一度も交通に使われたことはない。(両国間の緊張のため) 開通しなかった橋が再開されることはあるだろうか。



- (3) 米国が援助を武器密輸の隠れ蓑に使うのではないかとベネズエラ政府が疑うのには合理的な根拠がある。トランプ政権でベネズエラ攻撃を指揮するエリオット・エイブラムスは30年前にまさに同じことをやった。1987年8月17日のNYT紙は、次のように報じている。

◇エイブラムスは、人道援助の飛行機に武器を載せてニカラグアの反政府勢力(コントラ)に提供することを承認したが、彼はこの役割を「規則に則って」やったと自己弁護した。米務省の前ニカラグア人道援助室長の発言についての質問にこたえたもので、前室長は、支援空輸の飛行機を使ってコントラへ武器供給せよとの命令をエイブラムスの指示で2回行った◇。

人道援助を装った武器援助は、マドゥーロの恐怖症や一般的な想定ではなく、まさに同じことを実行した人物がいま米政策を仕切っているのである。

(以上)